

GUNMA
HOUSING
AWARD
2018

優秀賞

風が抜ける大きな屋根の家

く かせがぬけるおおきなやねのいえ

設計者 有限会社 HIRO建築工房

施工者 阿部工務店

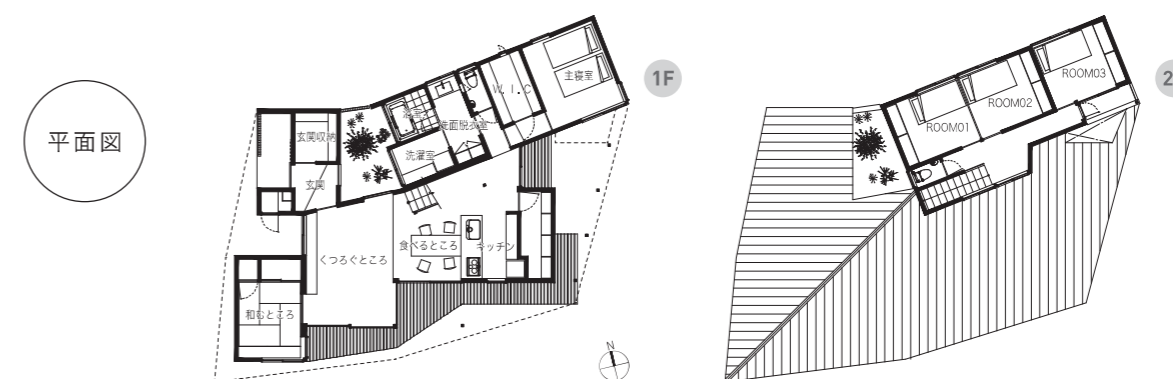


CONCEPT

設計主旨

建設地は旧群馬町で周辺を農地で囲まれた自然豊かな場所である。普段、埼玉や静岡を拠点に仕事をしているご主人が生まれ育ったこの群馬で子育てをしたい。土や緑など自然に触れるとともに、祖父や祖母とも交流を持って成長してほしいと、この計画が始まった。周囲は畑に囲まれ、近年少しずつ住宅が建てられている。建物は敷地の中央に配置した。広々とした周辺建物と適切な距離を保つとともに、回遊する駐車スペースや周辺全体に植栽スペースを設けるためである。建物は、リビングやダイニングのある大きな屋根のワンルームと2階建てで水廻りと個室のある2つのボリュームで構成される。大きな屋根のワンルームは低く抑えた軒先から2階の部屋へ向かって、勾配天井となり南西からの気持ちの良い風を家中に通すことができる。天井面は垂木がそのままの仕上げとなっており、質感を感じさせながら経年変

化を楽しめるようにした。大きな開口からは、家庭菜園や植栽の様子が覗え、室内外のつながりを感じさせる。2階ブロックはあえて北側に大きく高く配置することで、冬場の強風から家を守る防風林の役割を担う。2階には将来を考慮して3人まで対応できる子ども室を設置。1階と子ども室の距離感やつながりを大切に、1段上がったダイニングの床と一段下がった2階の床により、階高が低く抑えられそれぞれの距離を近いものとし、1階からも子ども室の様子が伝わるようにした。作業動線を考慮した水廻りは、物干しから収納まですべてをここで行える合理性を意識した。断面計画では高さや開口位置や大きさを検討し、より快適な風の通り道をつくり出した。これらにより、家族が常につながりながらも風と自然と共存する家となった。



REVIEW

講評

まだ農村の雰囲気が残る地域、コントラストの効いた外壁と伸びやかな屋根のある住宅が広い敷地に悠々と佇んでいる。審査員の到着を待っていたかのように嬉しそうに出迎えてくれて、そして語ってくれた。聞けば家族ひとりひとりの距離感を少しでも小さくしたい…との事。そんな施主の一番のお気に入り、個室・キッチン・ダイニング・居間・畳間と一連に立体的に構成、ひとつひとつは決して広くない空間だが使い勝手、視線・感覚の繋がりを慎重に配慮し設計されたこの伸びやかな空間である。複雑な構成ではあるが、住宅としてのヒューマンスケール（人体感覚）がとてもよい。内外連続する表しの垂木等、意匠性もさることながら環境との関係性も考慮されプラン力の高さを感じる。ぐんまの風土気候への馴染みの良さがとても高く評価できる作品である。

